



豊玉二中だより

令和6年度 第6号

発行日 10月2日(水)

練馬区立豊玉第二中学校

校長 大野 雄一郎

読書の秋

校長 大野 雄一郎

先日、ニュースを見ていたら「子どもの読書は増加傾向」と伝えていました。それによると、中学生が1か月に読んだ本の冊数は5.5冊で、この調査が始まって以来最高の数字だそうです。ちなみに、小学生も増加傾向、高校生はほぼ横ばい、大人は読書離れたそうです。スマホ全盛の時代に読書量が過去最高とは不思議に思いましたが、要因としては多くの学校で実施している朝読書が増加のきっかけとの解説があり、すぐに納得しました。朝読書のスタートは、1988年に始まった千葉県の私立のある女子高からと言われています。現在では、全国の小中高校27000校で朝読書を導入しています。本校でも毎朝授業の始まる10分間、朝読書の時間を設けて、担任と生徒も一緒になって本を読んでいます。そこで、読書の秋を迎えたいま、改めて読書の魅力をお伝えします。

- 1 新しい世界の発見がある～本を読むことで、普段の生活では味わえない新しい世界を体験できます。自分の知らない世界に飛び込むことで、視野が広がり、想像力も豊かになります。
- 2 心を豊かにする～感動的なストーリーや深いテーマに触れることで、自分の気持ちや考え方を見つめ直すきっかけになります。また、作品に登場する人物の気持ちを理解することで、共感する力や思いやりの心も育まれます。
- 3 コミュニケーションのきっかけになる～読んだ本について、友達や家族と感想を話すことで、コミュニケーションが深まります。

他にも新しい知識や情報の獲得、リラックスができるなど、いろいろな読書の良さがあります。学校の図書室にもたくさん本がありますので、ぜひ、良い本と出会うことを期待しています。

